

問 行政が遠くなり
北部は取り残される

答 北部の活性化なくして
宍粟市の発展はない



創政会代表
大上 正司

問

合併後3年半を振り返り、市民から合併してよかったという声が聞こえてこない。むしろ行政が遠くなっていく、北部地域は取り残されると心配の声が強い。町ぐるみ検診の会場が減って3kmも4kmも遠くなったり、猫の引き取りが、遠く一宮町から千種市民局まで行かなければならない月があったり、行政サービスが低下しています。少子化対策・地域情報化事業の着手・新庁舎建設・県産木材供給センターの誘致など、厳しい財政状況の中で、市長以下職員が一丸となって、積極的に取り組まれたことは一定の評価は出来るが、市民の声を反映した、夢のまちづくり実現に向けたきめ細かな温もりのある行政運営が出来ているかどうか私は疑問

に思っています。行政が遠くなっていく、北部地域が取り残されて行くと言う市民の心配の声に、どのような施策や行政運営で対応されるのか。

市長

豊かな自然と資源・地域の魅力を活かし、市民の参画と協働を基本に、宍粟は一つという一体感に立った、特色ある町づくりを進めて参りたい。北部の活性化なくして宍粟市の発展はないと考えています。

問

新庁舎完成に合わせ、新たな行政サービスの考え方は。効率的、機能的な行政運営のためどのような組織再編か。市民に親しんでいただく庁舎の活用は。又、庁舎の

見学会を市民局からバスを運行し開催してはと考えますが、山崎市民局以外の、3市民局の組織・機構の考え方は。現地解決型は継承されるのか。山崎市民局跡地の利活用の検討と周辺住民への説明は。

市長

組織は、効率的な業務分担に

向け見直し、庁舎はロビーなどを解放し夢公園等と一体として親しんでいただけるようにしたい。見学会は検討します。市民局は従来通りの体系を継承しますが、山崎市民局跡地には一部借地があり、市民の意見を聞きながら活用を検討したい。

問

広域による消防署の合併が検討されているが、どのような形で、市民の安全を守るのか。合併により、北部が強化されるのか、宍粟市としての考え方は。



9月/園の菜園で収穫しました(三方幼稚園)

副市長

人口30万人以上の規模の広域化が推進され、現在、中播磨、西播磨県民局管内5市6町の枠組みの広域化が検討されています。消防力の強化と、施設の拡充などのスケールメリットが期待出来ません。

関連質問 (岡田初雄)

広域合併が、北部地域の消防力低下につながるよう十分配慮されるよう、提言します。